

お水・トイレの 大きな地震にそなえる安心リーフレットの制作と展開

豊田市上下水道局

1 抱えていた課題

過去の災害では

大規模災害により長期にわたる断水が発生

人間の命を維持するために
最も重要な水の提供が困難

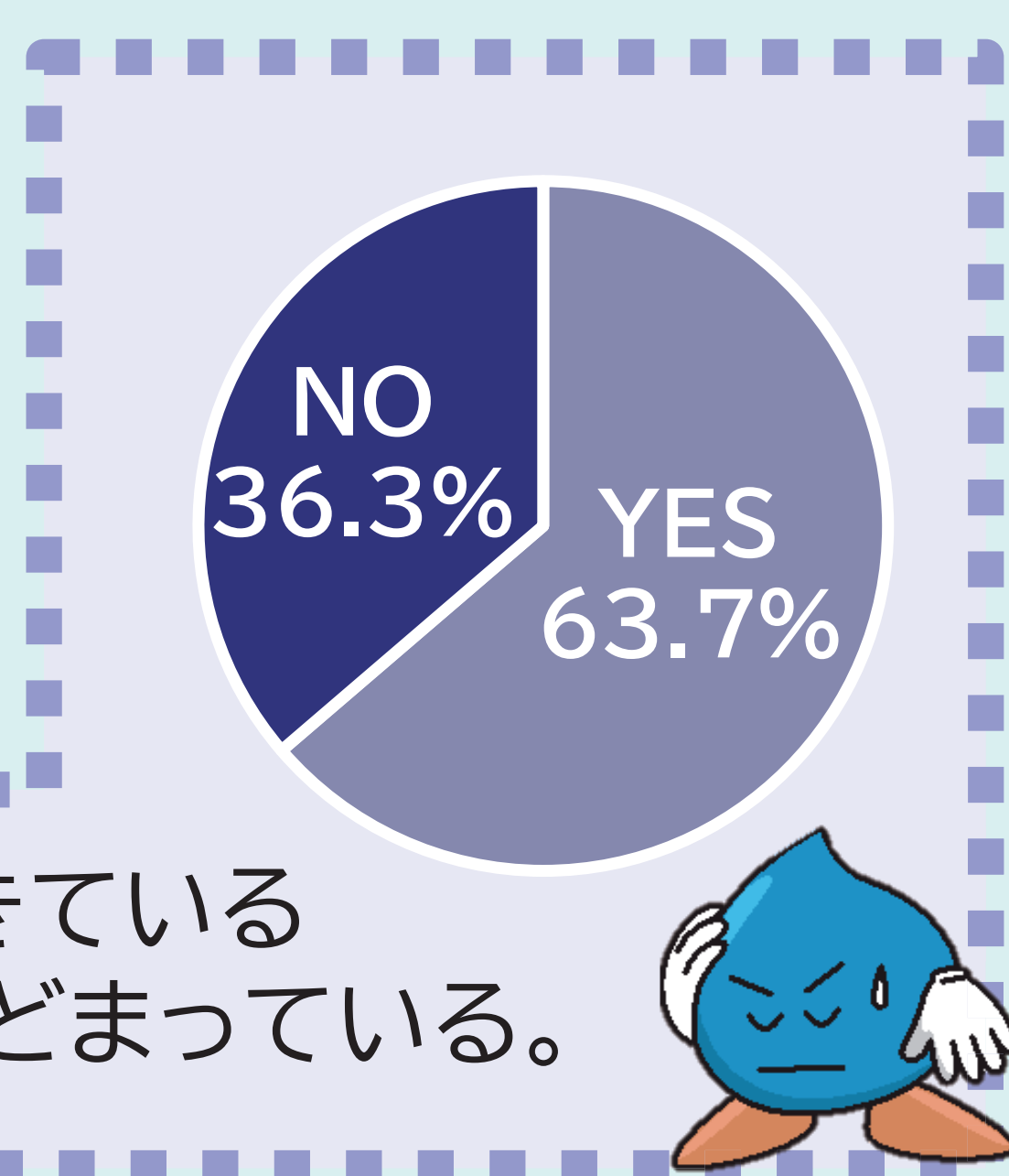


令和6年能登半島地震
(豊田市派遣先:石川県)

豊田市では
南海トラフ巨大地震

震度7

甚大な被害が生じるおそれ



豊田市の状況

飲料水を3日以上備蓄できている
市民の割合は、63.7%にとどまっている。

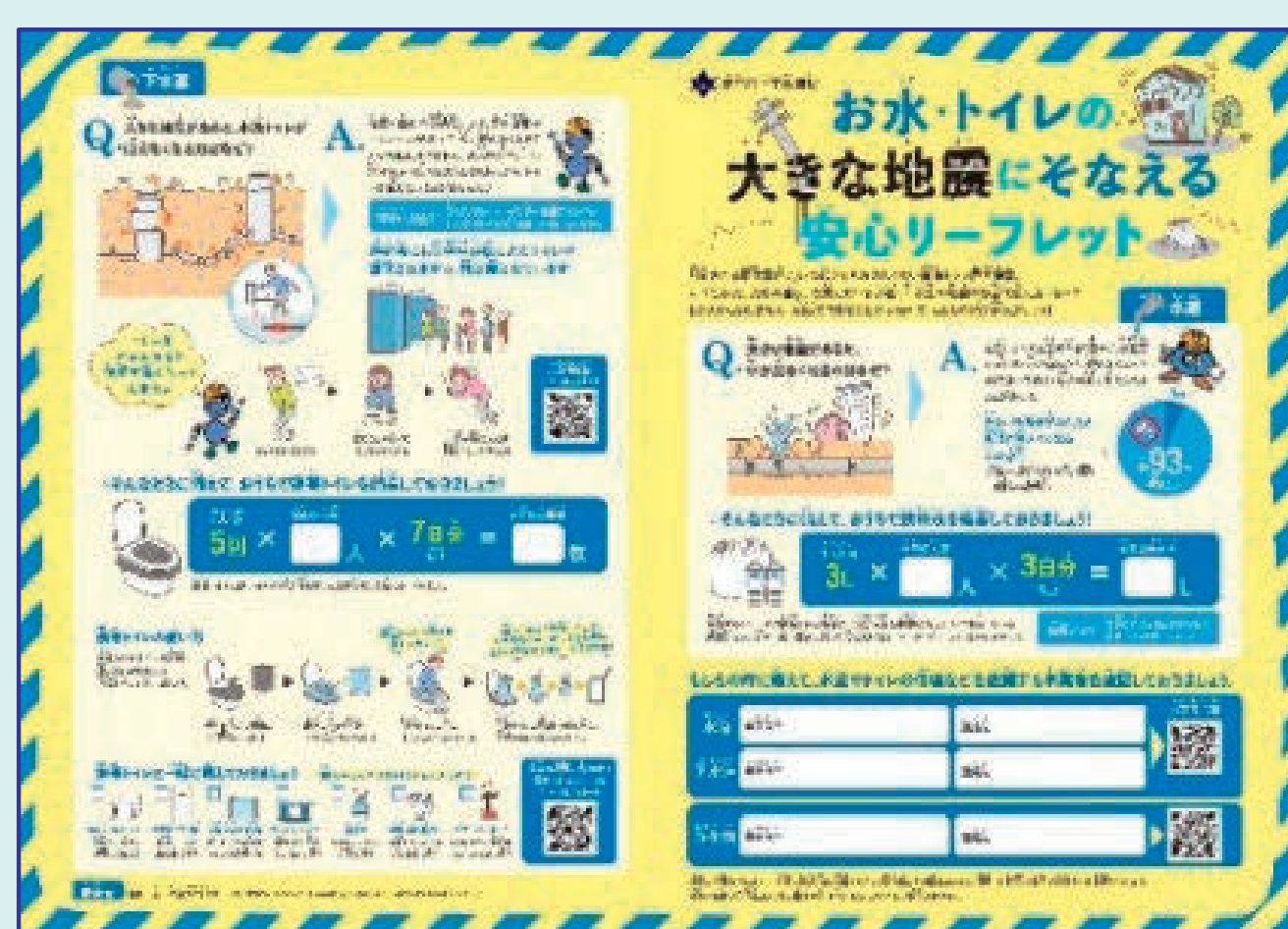


家庭での災害への備えに関するPRを強化

2 広報活動概要

飲料水やトイレに関する情報をまとめた
リーフレットを新たに制作

各家庭でできる災害対策のうち
飲料水やトイレに関する情報を1枚に凝縮



制作したリーフレット



掲載ホームページ

防災訓練やイベントで
1か月で590枚配布



3 広報活動の狙い

子どもをターゲットにした

子どもたちを起点として
家庭や地域一体に広がる

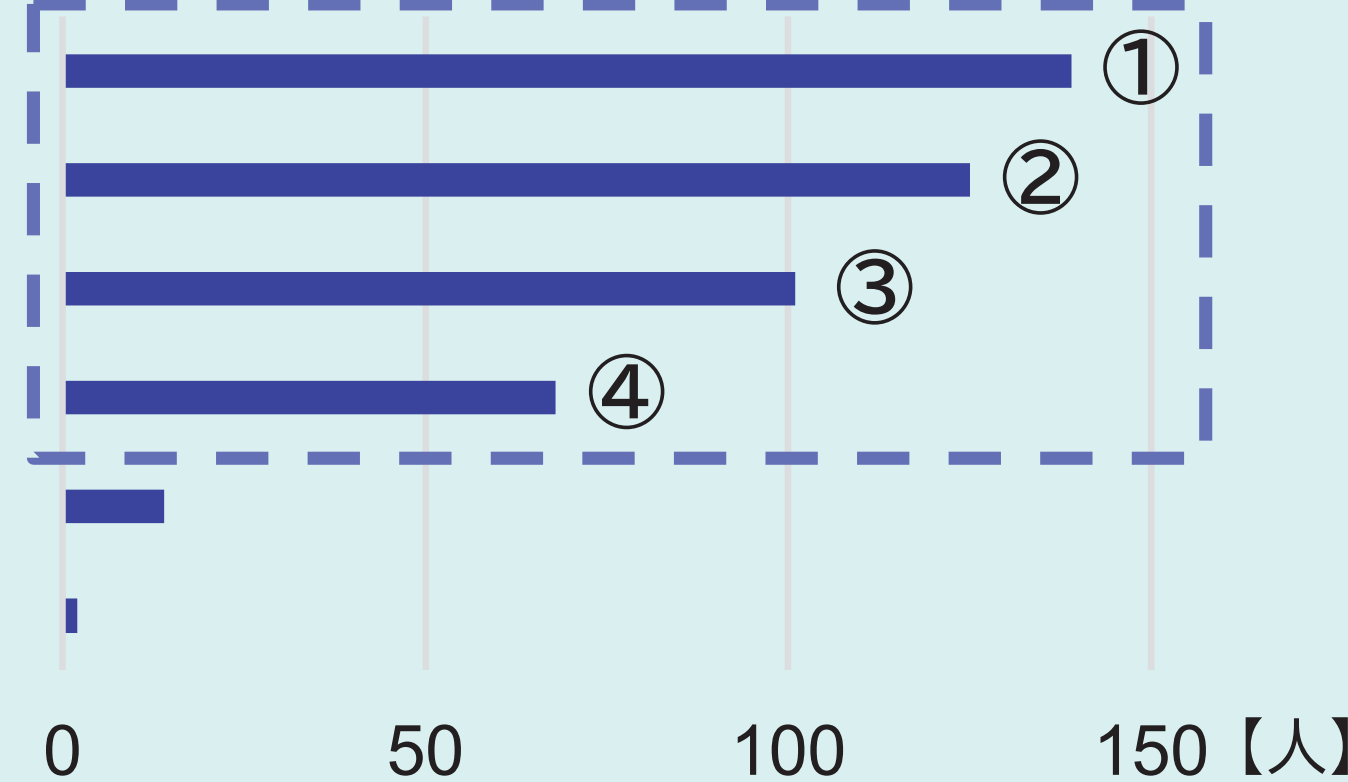
子どもたちが真に知りたい情報を厳選

事前のアンケート結果をもとに
ニーズの高い情報を紙面に掲載

①災害時に水を配る場所や 事前に用意するもの



水道・下水道の災害への
備えについて知りたいこと



②自宅周辺で想定される被害 (断水など)に関すること



大きな地震があると、
水が出なくなるのはなぜ?

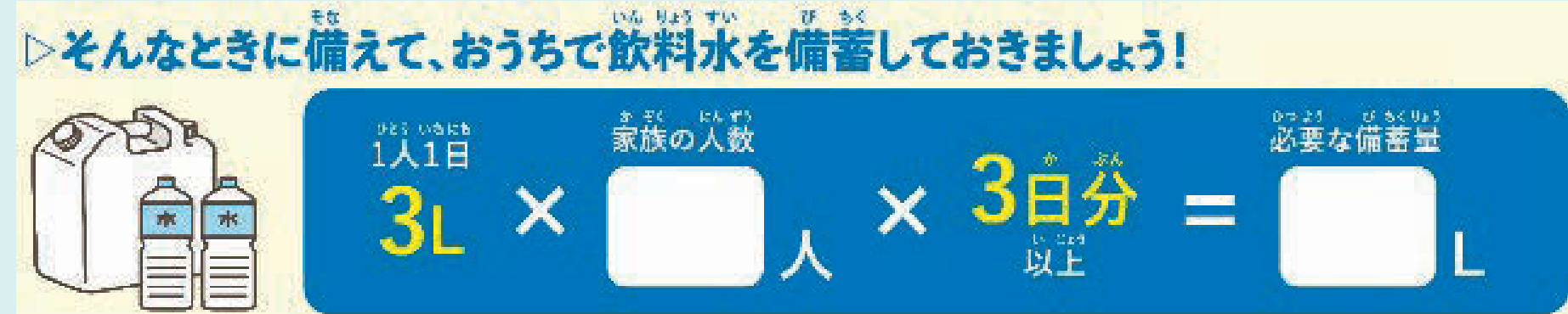
大きな地震が起こると、どんな状況になるか
子どもたちにも伝わりやすい表現とした。

4 PRポイント

ポイント① 発信力

子どもの主体性を促す「自分ごと化」への工夫

◆ 子どもたちが自ら記入する仕組みを採用



- ・ 災害時の備えの必要性を深く理解し、行動できる
- ・ 日常を支える上下水道事業の大切さを理解できる

出前講座等での活用といざという時の確実な情報伝達

◆ リーフレットは制作コストを抑えつつ
出前講座や防災訓練等で配布しやすい設計

停電・通信障害下でも
「確実な情報を確認できる」実践的なツール

ポイント② 波及性

◆ リーフレットは、災害への備えとして
「子どもから大人までが真に知りたい情報」を掲載

全国的に共通する項目

他団体が啓発物を制作する際などに
非常に参考にしやすく、高い波及性が見込める。